

埼玉県外国人住民意識調査 報告書（概要版）

令和3年（2021年）1月

埼玉県

目次

第1章 調査概要	1
第2章 調査結果	
Ⅰ. 回答者の基本属性について	2
Ⅱ. 日常生活について	7
Ⅲ. 日本語について	11
Ⅳ. 県や市町村への要望について	14
Ⅴ. その他	19

第1章 調査概要

1. 調査の目的

県内外国人住民の生活意識や行政に対する要望等を把握し、県の国際施策を推進するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の設計

項目	内容
調査期間	令和2年9月30日（水）～10月30日（金）
調査対象	本調査に協力可能な県内市町村在住の18歳以上の外国人
標本数	4,000人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	自記式調査票（ルビ付きやさしい日本語）による郵送配付、郵送回収及びインターネット調査（ルビ付きやさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語の各言語版を作成）の併用

3. 回収結果

有効回収票数	有効回収率
1,447件	36.2%

注;回答比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記載している。従って、合計が100%にならない場合がある。

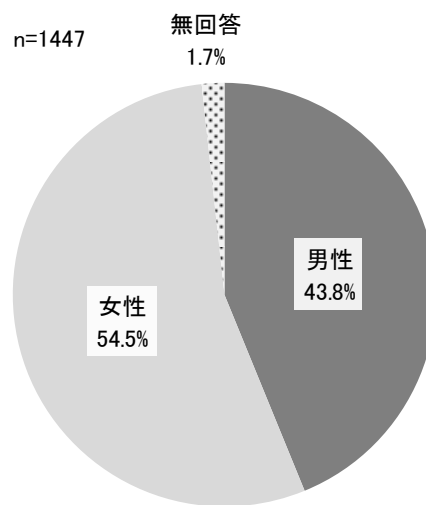
第2章 調査結果

I. 回答者の基本属性について

1. 性別

女性が 54.5% で男性 (43.8%) より 10.7 ポイント多くなっている。

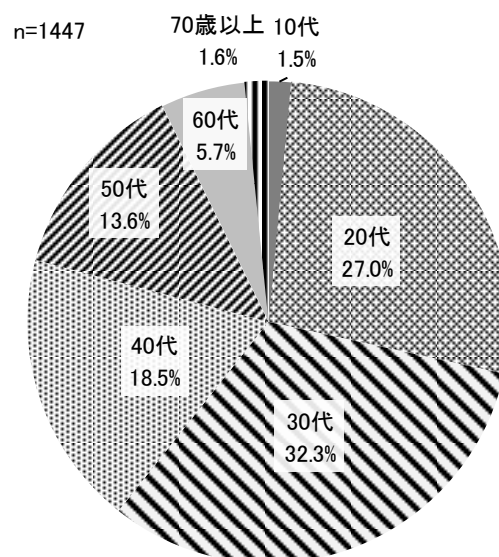
図 I - 1. 性別



2. 年齢

40 歳未満が6割 (60.8%) を占め、世代別では 30 代が最も多く3人に1人 (32.3%)、次いで、20 代が 27.0%、40 代が 18.5% となっている。

図 I - 2. 年齢



3. 国籍

図 I - 3. 国籍

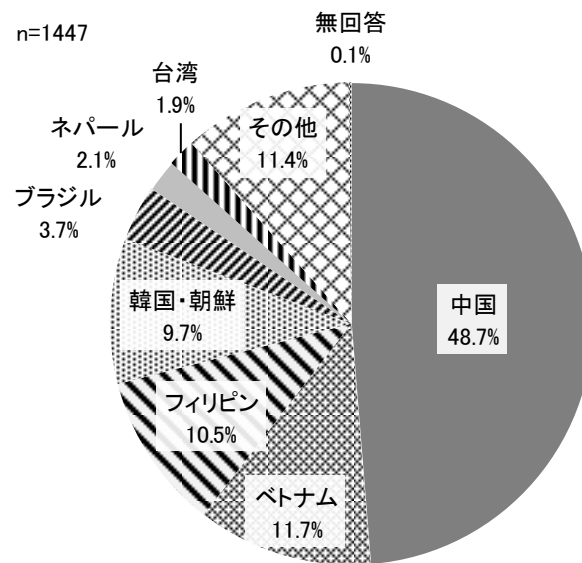
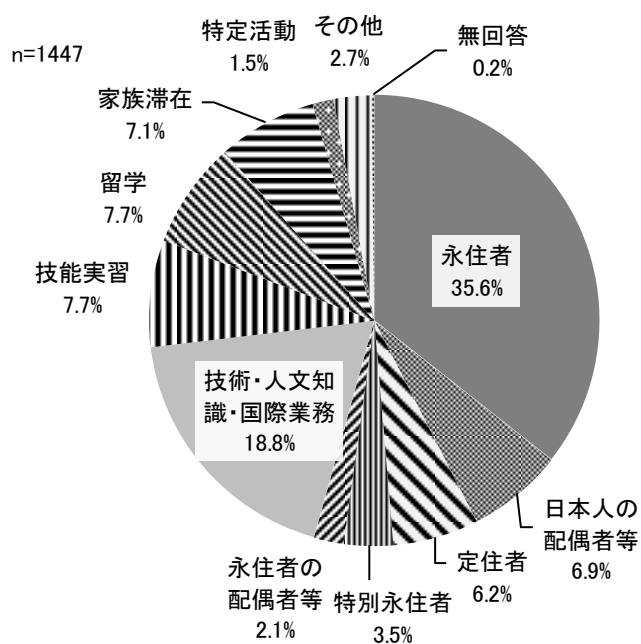


表 I - 1. 「その他」の国籍

国籍	人数	%	国籍	人数	%
合計	165	11.4	ドイツ	2	0.1
タイ	21	1.5	メキシコ	2	0.1
インドネシア	19	1.3	コロンビア	2	0.1
ミャンマー	12	0.8	セネガル	2	0.1
アメリカ合衆国	12	0.8	シンガポール	1	0.1
ペルー	11	0.8	キルギス	1	0.1
パキスタン	8	0.6	イタリア	1	0.1
トルコ	6	0.4	スペイン	1	0.1
モンゴル	5	0.3	ベルギー	1	0.1
マレーシア	5	0.3	ギリシャ	1	0.1
インド	5	0.3	チェコ	1	0.1
バングラデシュ	5	0.3	ハンガリー	1	0.1
カナダ	5	0.3	ウクライナ	1	0.1
スリランカ	4	0.3	ルーマニア	1	0.1
イギリス	3	0.2	ジャマイカ	1	0.1
ロシア	3	0.2	アルゼンチン	1	0.1
ナイジェリア	3	0.2	チリ	1	0.1
カメルーン	3	0.2	マリ	1	0.1
ガーナ	3	0.2	ウガンダ	1	0.1
カンボジア	2	0.1	マダガスカル	1	0.1
フランス	2	0.1	無回答	4	0.3

4. 在留資格

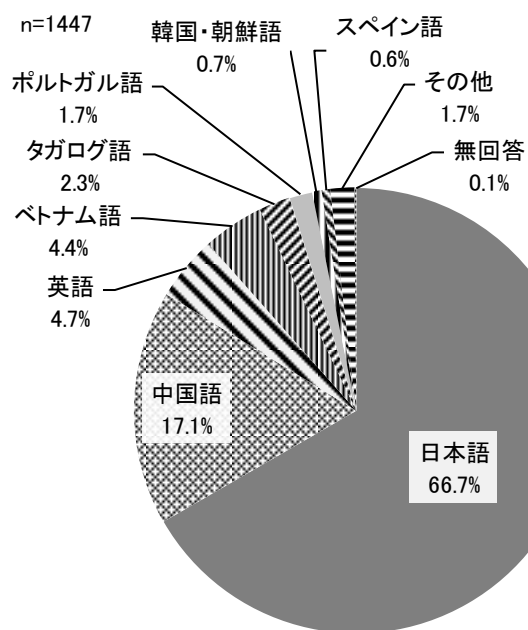
図 I - 4. 在留資格



5. 生活上での主要な使用言語

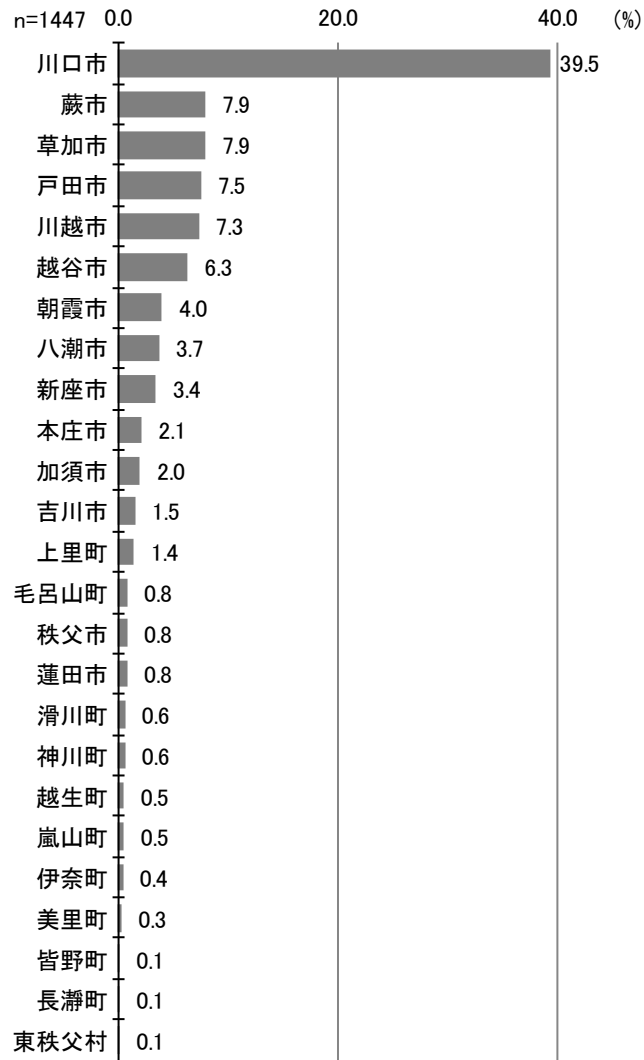
生活する上で3分の2が主に「日本語」を使用しているが、3分の1は日本語以外の言語を主に使用している。

図 I - 5. 生活上での主要な使用言語



6. 居住市町村

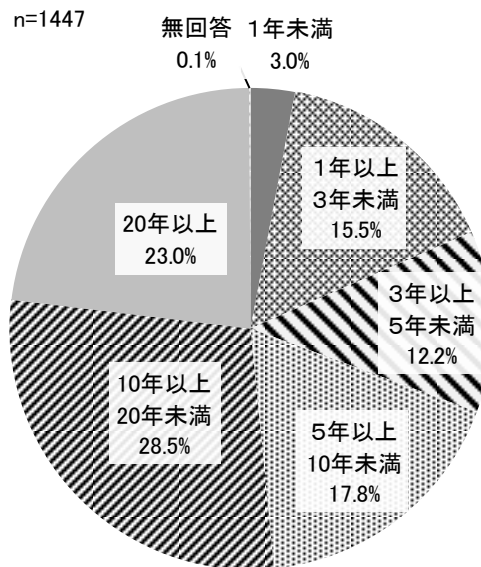
図 I - 6. 居住市町村



7. 日本での居住期間

10年以上が半数(51.5%)を占め、5年以上10年未満が2割弱(17.8%)、5年未満が3割(30.7%)となっている。

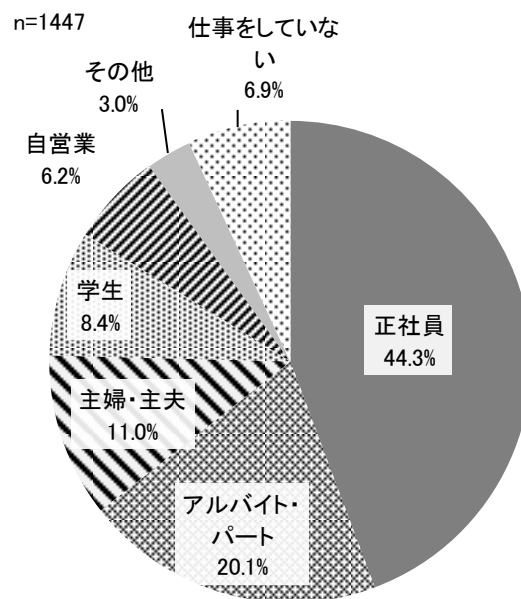
図 I - 7. 日本での居住期間



8. 職業

「正社員」が44.3%で最も多く、次いで、「アルバイト・パート」(20.1%)、「主婦・主夫」(11.0%)の順となっている。

図 I - 8. 職業



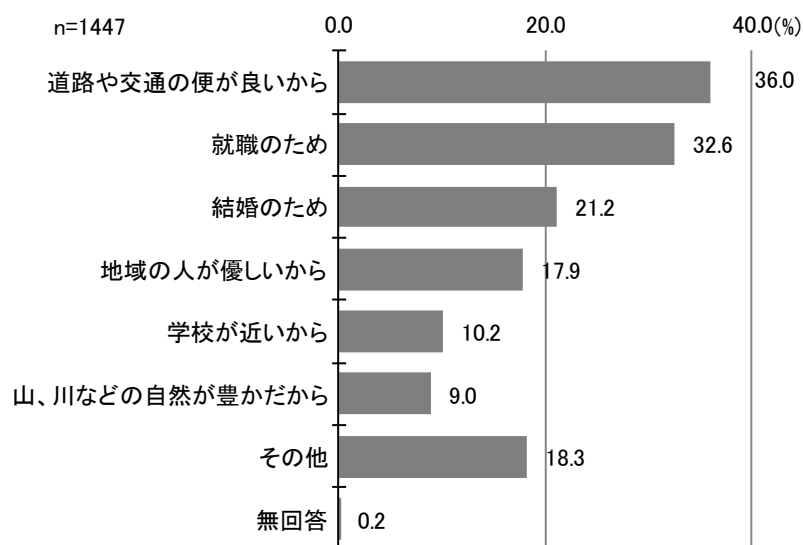
Ⅱ. 日常生活について

1. 埼玉県に住む理由

「道路や交通の便が良いから」が36.0%で最も多く、次いで、「就職のため」(32.6%)が多くなっている。

「その他」の内容としては、「家賃が安いから」、「生活費が安いから」、「家族や親戚が近くに住んでいるから」、「同国人の知人が多いから」、「夫の職場があるため」などとなっている。

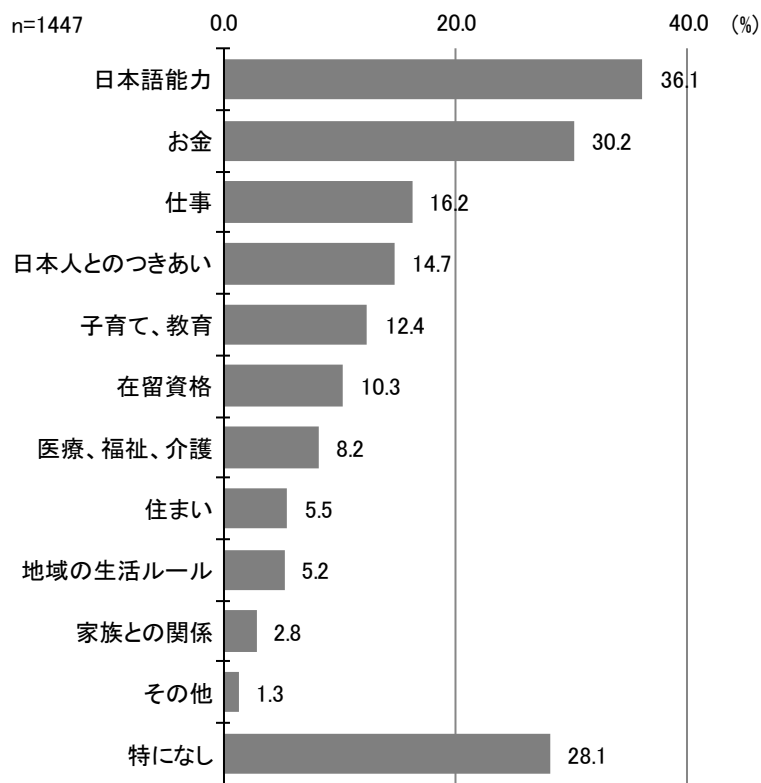
図Ⅱ－1. 埼玉県に住む理由（三つまで）



2. 生活の中で特に困っていること

「日本語能力」が36.1%で最も多く、次いで、「お金」(30.2%)が多くなっている。一方、困っていることは特になしという人も28.1%となっている。

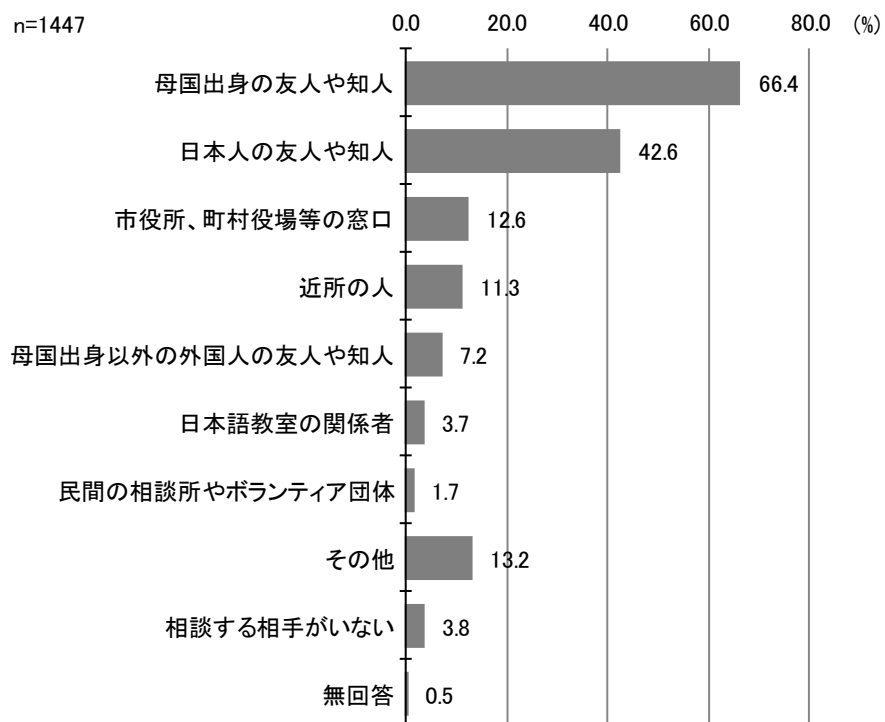
図Ⅱ－2. 生活の中で特に困っていること（三つまで）



3. 日常生活で困った時の相談先

3人に2人(66.4%)が「母国出身の友人や知人」に相談し、4割程度(42.6%)が「日本人の友人や知人」に相談している。

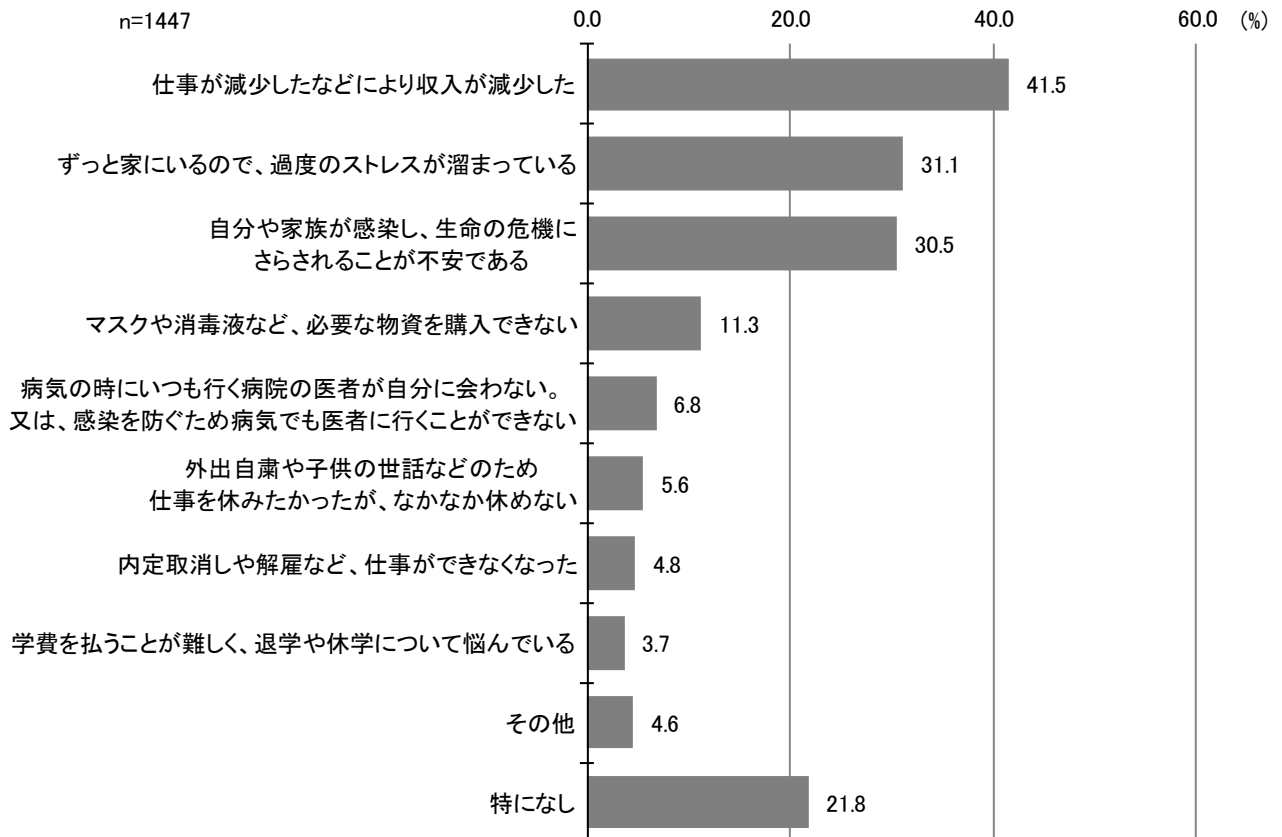
図Ⅱ－3. 日常生活で困った時の相談先（三つまで）



4. 新型コロナウイルス感染症により困ったこと

「仕事が減少したなどにより収入が減少した」が4割(41.5%)で最も多く、次いで、「ずっと家にいるので、過度のストレスが溜まっている」(31.1%)、「自分や家族が感染し、生命の危機にさらされることが不安である」(30.5%)が3割となっている。また、困ったことは特にないという人は2割(21.8%)となっている。

図Ⅱ－4. 新型コロナウイルス感染症により困ったこと（三つまで）



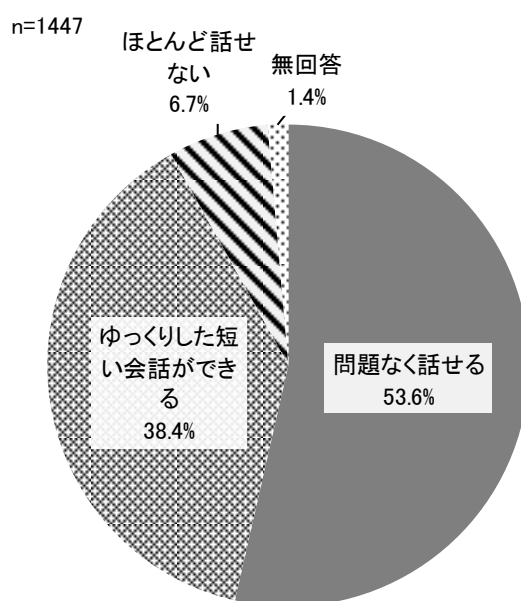
Ⅲ. 日本語について

1. 日本語の運用能力

◆ 話す

「問題なく話せる」が過半数の 53.6%を占め、「ゆっくりした短い会話ができる」が 38.4%となっている。また、「ほとんど話せない」は 6.7%となっている。

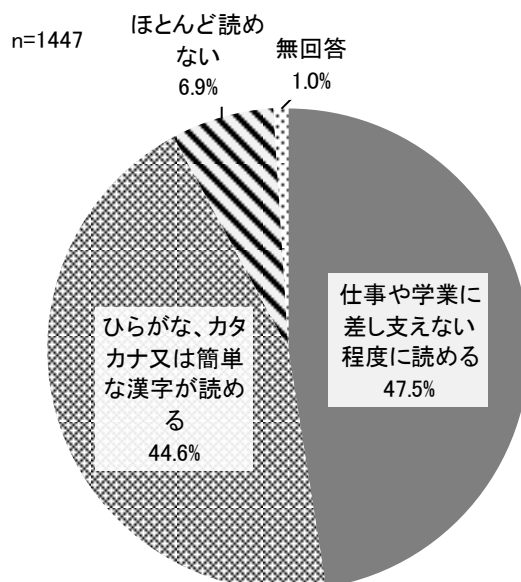
図Ⅲ－1. 日本の運用能力「話す」



◆ 読む

「仕事や学業に差し支えない程度に読める」が 47.5%であり、「ひらがな、カタカナ又は簡単な漢字が読める」(44.6%)をやや上回っている。また、「ほとんど読めない」は 6.9%となっている。

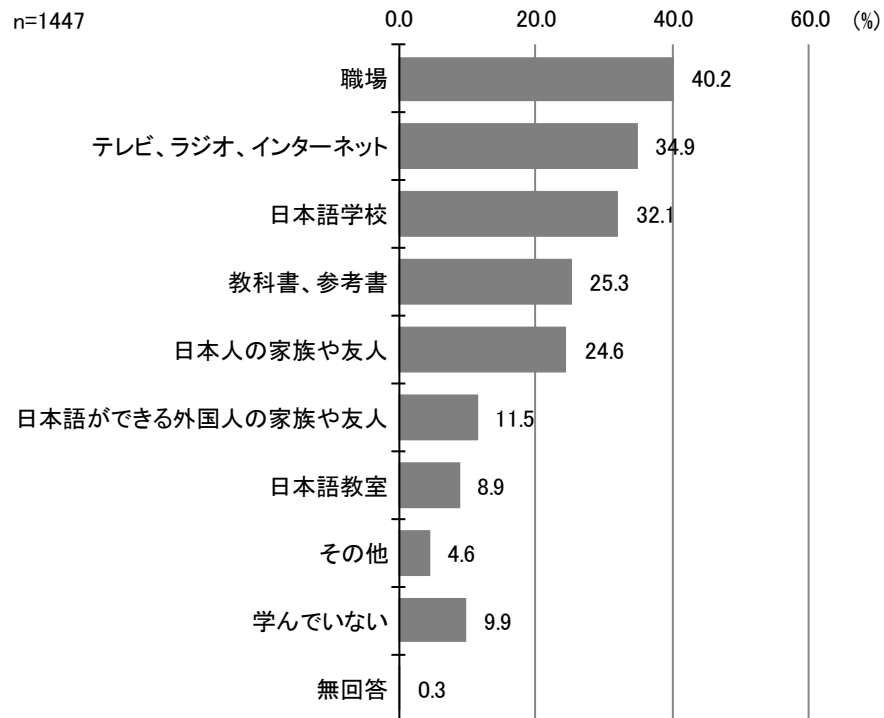
図Ⅲ－2. 日本の運用能力「読む」



2. 日本語の学習方法

「職場」が40.2%で最も多く、次いで、「テレビ、ラジオ、インターネット」(34.9%)、「日本語学校」(32.1%)となっている。

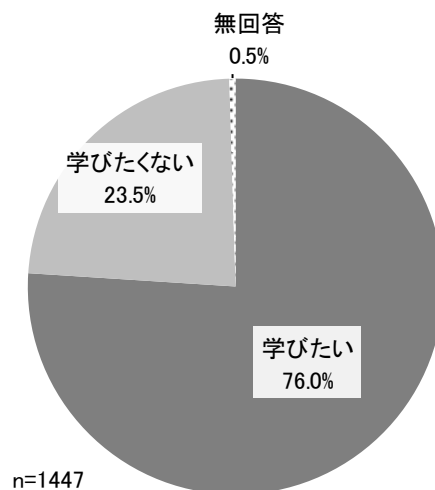
図Ⅲ－3. 日本語の学習方法（三つまで）



3. 日本語の学習意向及びその理由

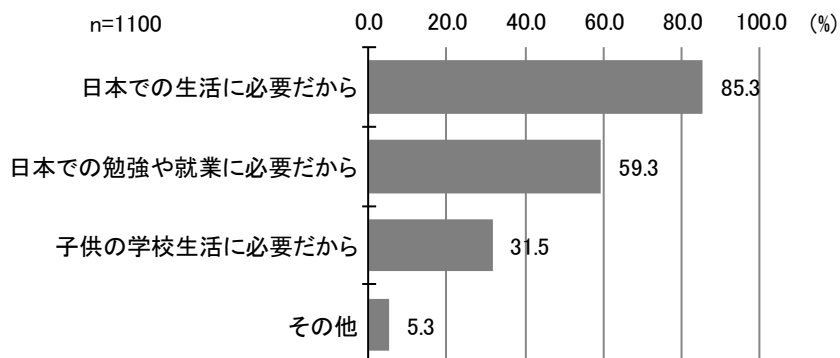
4人に3人(76.0%)が「学びたい」と回答している。

図Ⅲ－4. 日本語の学習意向



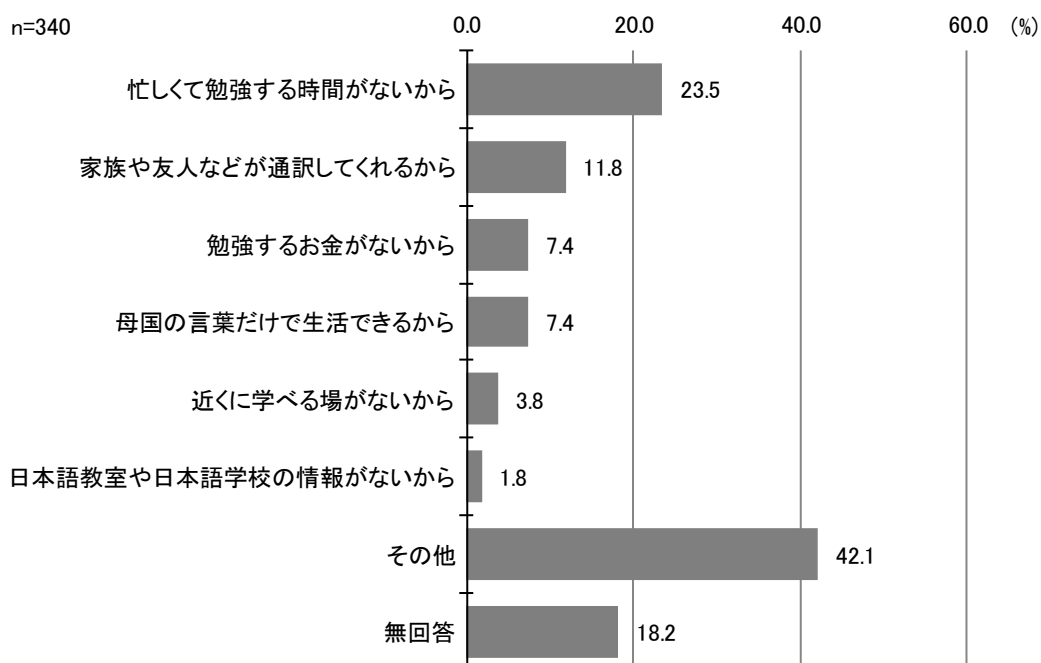
「学びたい」と回答した人のその理由としては、「日本の生活に必要なだから」が 85.3%で最も多い。

図Ⅲ－５．学びたい場合の理由（三つまで）



「学びたくない」と回答した人のその理由としては、「忙しくて勉強する時間がないから」が 23.5%で多い。また、「その他」の内容としては、「現在の日本語で十分と思うから」、「既に十分にでき、日常生活や仕事に支障がないから」などとなっている。

図Ⅲ－６．学びたくない場合の理由（三つまで）



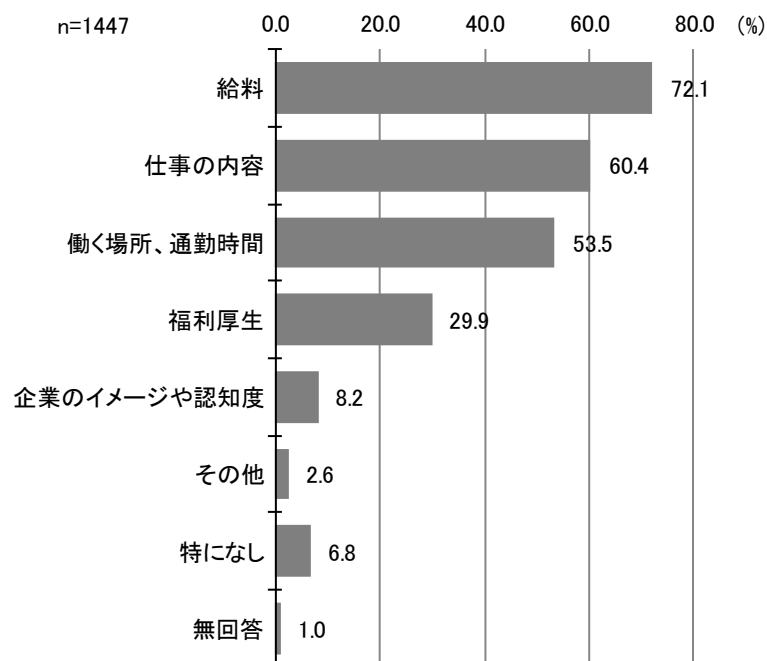
IV. 県や市町村への要望について

① 仕事について

1. 仕事を決める時に大事にすること

「給料」が 72.1%で最も多い。次いで、「仕事の内容」が 60.4%、「働く場所、通勤時間」が 53.5%で続き、これら三つの点について過半数の人が仕事を決める時に大事にしている。

図IV－1. 仕事を決める時に大事にすること（三つまで）

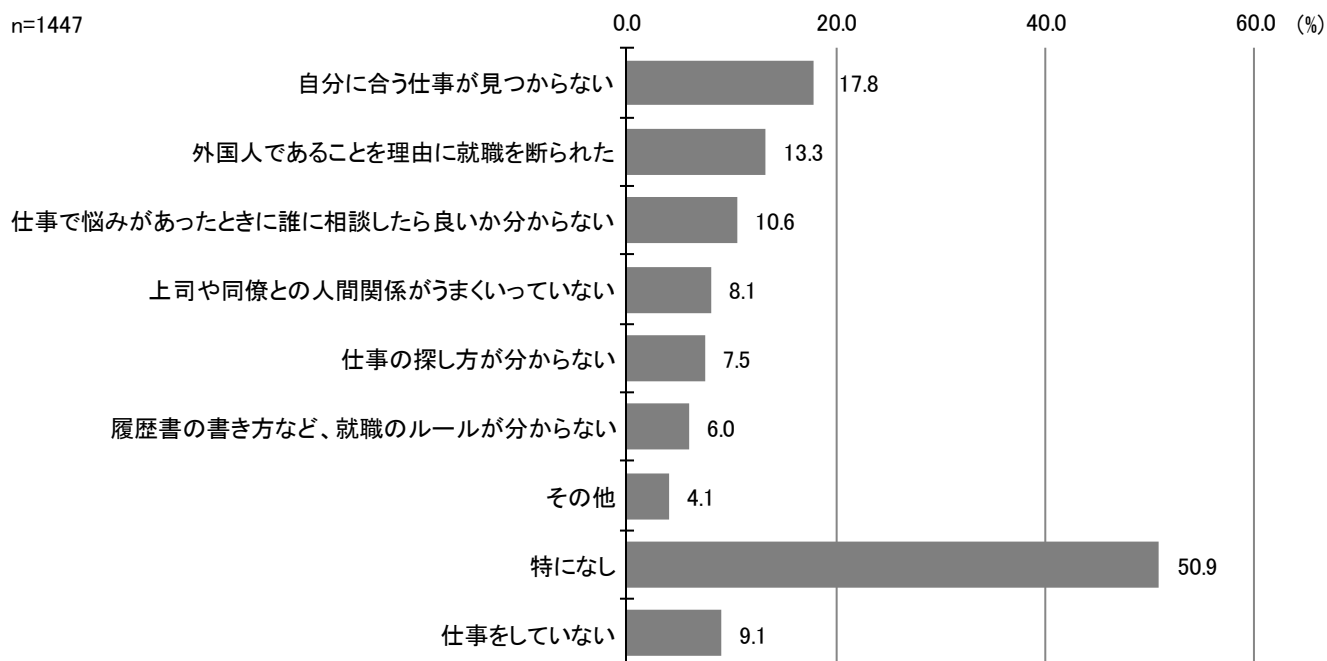


2. 仕事で困っていること

「特になし」、「仕事をしていない」を除いた困っていることのある人は4割となっている。

困っていることとしては、「自分に合う仕事が見つからない」が 17.8%で最も多く、次いで、「外国人であることを理由に就職を断られた」(13.3%)、「仕事で悩みがあったときに誰に相談したら良いか分からない」(10.6%)となっている。

図IV-2. 仕事で困っていること（三つまで）



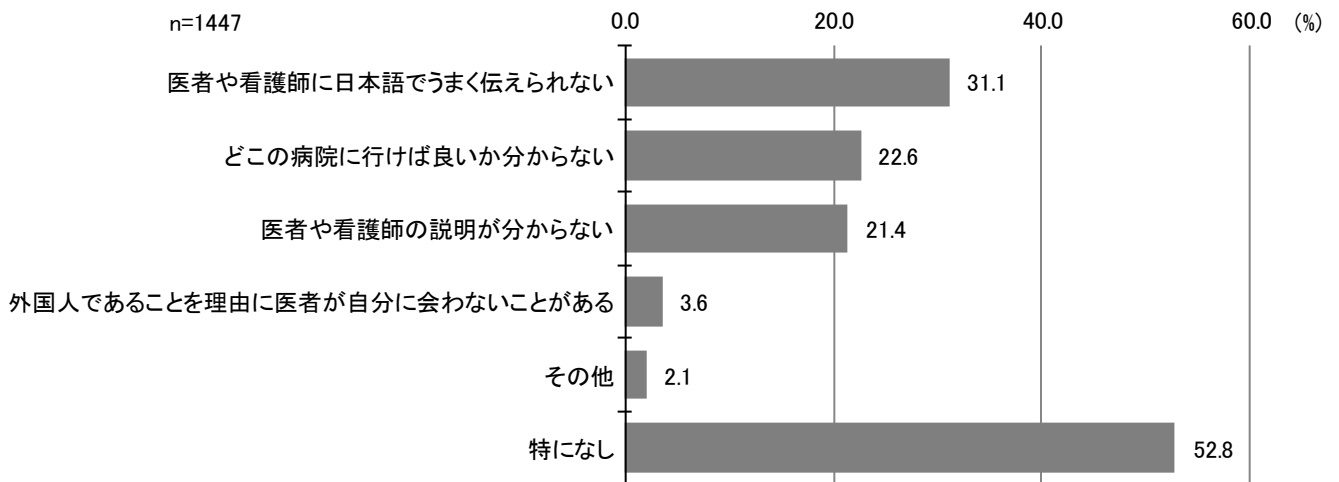
② 医療について

1. 診察時に困っていること

「特になし」がほぼ半数の 52.8%となっている。

困っていることとしては、「医者や看護師に日本語でうまく伝えられない」が3割(31.1%)で最も多い。

図IV-3. 診察時に困っていること（三つまで）

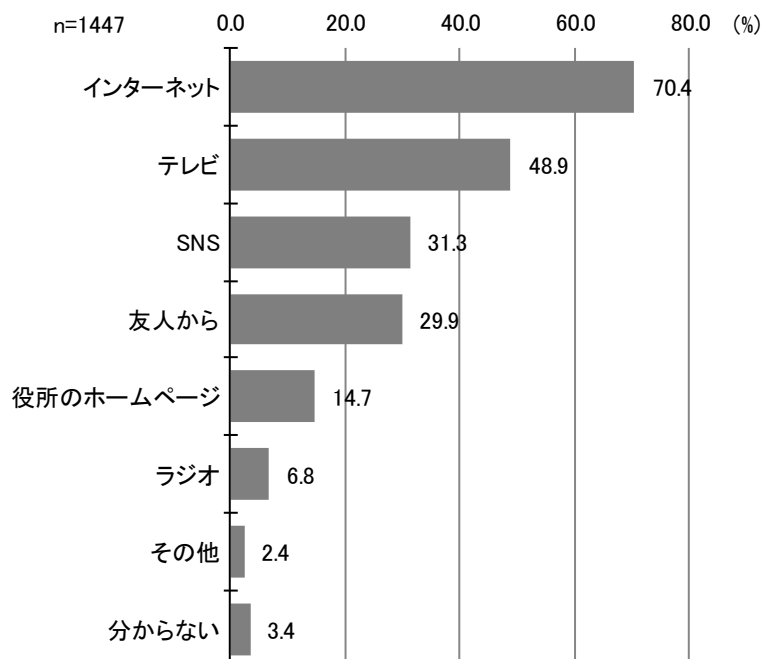


③ 防災・災害について

1. 災害時の情報の入手先

「インターネット」が7割(70.4%)を占め最も多く、次いで、「テレビ」が半数(48.9%)となっている。

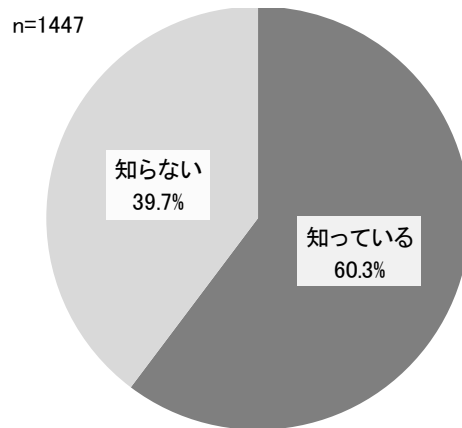
図IV-4. 災害時の情報の入手先（三つまで）



2. 災害時の避難場所の認知度

「知っている」が6割(60.3%)、「知らない」が4割(39.7%)となっている。

図IV-5. 災害時の避難場所の認知度(国籍別)

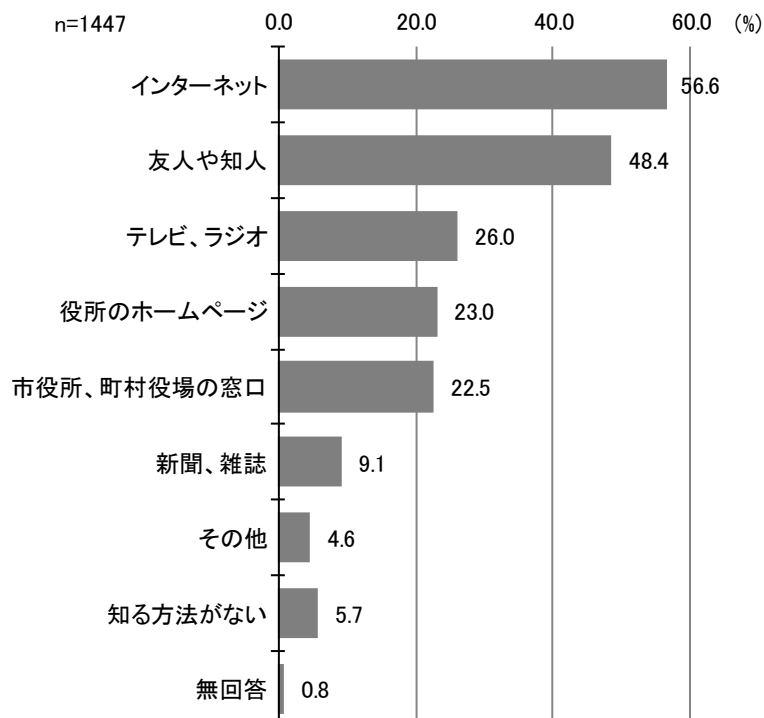


④ その他

1. 生活情報の入手先

「インターネット」が56.6%で最も多く、次いで、「友人や知人」が48.4%となっている。その他、「テレビ、ラジオ」が26.0%、「役所のホームページ」が23.0%、「市役所、町村役場の窓口」が22.5%で続いている。

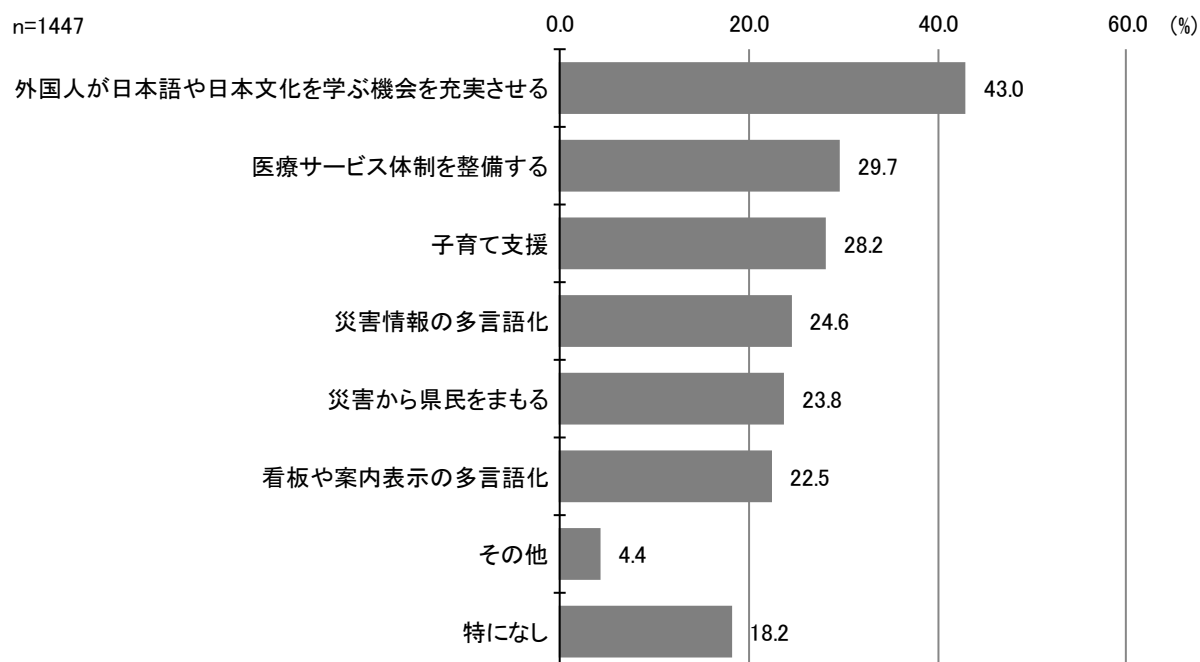
図IV-6. 生活情報の入手先(三つまで)



2. 県への要望

「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」が 43.0%で最も多く、次いで、「医療サービス体制を整備する」(29.7%)、「子育て支援」(28.2%)となっている。

図IV-7. 県への要望（三つまで）



V. その他

1. 「外国人総合相談センター埼玉」の認知度

「知っている」が 18.5%となっている。

表V－1. 「外国人総合相談センター埼玉」の認知度

